

## ティーチング・ステートメント

所属 経営情報学科

名前 羽田功

作成日 2020年9月14日

### 【責任】

- ・授業としては、「ゼミナール1, 2, 3」、「世界史／西洋史」、「総合特論A(外国事情・欧州圏[ドイツ])」を担当(昨年度、今年度)
- ・その他、副学長としての業務全般、商大未来会議主管(教育プログラムなどの将来構想の策定)、入試問題作成、オープンキャンパス、個別履修相談など

### 【理念】

- ・仕事に限らず、生涯にわたり生活全般においてよりよく生きるための土台となる教養を身につけることの大切さに気づいてほしい。
- ・自分の言葉で自分を表現し、それを的確に相手に伝える力、相手の言葉を正しく受け止め、理解する力を身につけることで、コミュニケーションの場を広げていくことの大切さに気づいてほしい。
- ・身近な問題の多くが実は社会が抱えている問題、世界が解決を迫られている問題と関係していることに気づくことのできる柔軟な想像力を身につけてほしい。
- ・どのような分野・領域であっても、客観的・科学的な思考を巡らすための前提として、基礎知識や必要なスキルを習得することが重要であることを知ってもらいたい。
- ・大学での学びを通して、一つ一つの学問は体系的に構成されていること、同時にそれぞれが様々な形でつながって大きな知の世界を作っていることを知ってほしい。また、そうした世界の見取り図を自分の中に取り込み、これを手がかりにして、何事につけても具体的な事例と抽象的な考え、ミクロ的なものの見方とマクロ的なものの見方を結び付けて考えることを習慣づけてほしい。

### 【方針・方法】

・概要：教養の土台を築くために必要な基礎知識やスキルを獲得すること、学問の体系性や学問間の多様な関係・関連を理解すること、それを踏まえて目の前にある問題をより大きな枠組みの中で把握できる想像力を活性化させること、コミュニケーション力を高めることで人や社会、世界とのつながり方の選択肢を増やすことを目的とする。

- ・方針1：基本的な知識が獲得できているかどうかを確認する。同時にこれが教養の土台を作る出発点ともなることを意識化させる。

方法1：授業後に毎回確認のためのテストを行う

方法2：課題には必ずフィードバックを行い、正解についての理解ができているかどうか

を確認する

- ・方針2：具体的な問題を提示し、これに関係するさまざまな学問について、基本的な体系、特徴、成立の背景、問題との関わり方などを伝える
  - ・方法1：話題性や自分たちへの影響、効果などの観点から取り上げる問題を定める
  - ・方法2：自分でそれぞれの学問の概要について調べ、自分なりに当該の問題との関係を考えさせ、グループワークなどを通して発表し、議論を行う
  - ・方法3：対話・議論の経緯を踏まえて、これを総括する形で学問の体系と相互のつながり方への理解を深める
- ・方針3：身近なトピックから授業のテーマや内容自体への関心を喚起し、理解を深める工夫をする。
  - 方法1：身近なトピックから出発して考えることのできる課題を設定する
  - 方法2：回答をもとに、身近なトピックがどのような経路を通してさまざまな方向に発展していくのか、具体的な例をあげて説明する
  - 方法3：方法2で示された以外の方向があるかどうかを考えさせる
- ・方針4：自分を伝えるにはどのような「ことば」が必要か、相手を理解するにはどのような「ことば」が必要かを考えることで、コミュニケーション力を養う場を提供する
  - 方法1：共通のテーマを設定して、一人ひとりがプレゼンテーションを行う
  - 方法2：プレゼンテーションについて議論を行い、不足・欠落しているものを確認する
  - 方法3：不足・欠落しているものを補う努力をへて、再度プレゼンを行う
  - 方法4：以下、1～3を何度かくりかえす。そのつど、欠けているものの役割を確認することで、伝えるべき情報、受け取るべき情報の幅を広げ、量を増やしていく

#### 【評価・成果】

- ・評価：
  - ①課題などの提出物における学生の評価(「わかりやすい」「面白い」「興味がわいた」など)
  - ②授業評価(満足度は8～9割)
- ・成果：
  - ①提出された課題などの記述を通して、「歴史」を「履歴書」と考えることで歴史に興味があつた、自分が「\*\*民族」だということなど考えたことがなかったがあらためて民族・民族問題に関心を持った、と前向きな反応を確認できた。
  - ②プレゼンテーションやレポートの質が向上した

#### 【目標】

- 短期：学生の理解度測定の制度を上げるために授業の構成を見直す
- 長期：
  - ①テキストを完成させると共に、これが絶えず修正されるような授業を展開する
  - ②学生が俯瞰的・鳥瞰的な視点を身につけたことを確認できる評価方法を考える